

中心商店街を蘇らせた下町の魅力とソフト事業の力～名古屋市大須商店街～

名古屋の中心である「栄地区」の発展に押されて衰退の一途をたどっていた大須商店街では、商店街の現状に危機感を持った若手商業者が外部の協力を得て新しいイベントを開催し、この成功がきっかけとなって再生に向けて動き出しました。その後、数々のイベントの開催による集客の魅力づくりと情報発信、パソコン街の形成などの特化型商業機能の集積との相乗効果により、名古屋を代表する中心商店街として復活しています。

【かつての盛り場大須商店街の衰退】

戦前、多数の映画館が集積するなど名古屋の盛り場として繁栄した大須も、昭和 20 年の空襲によって壊滅的な打撃を受けましたが、戦後の復興とともに、娯楽と低価格の洋服の町として勢いを取り戻しかけました。しかし、戦災復興土地区画整理事業に伴う 100m 道路の整備により名古屋の都心の中心である「栄地区」と分断され、また、消費志向の変化など時代の潮流に対応できずに衰退に向かいました。



名古屋市の中心市街地の区域と大須の位置

出典：「名古屋市中心市街地活性化基本計画」H15 年 5 月、名古屋市

【人をひきつける戦略的なイベントによる再生！】

昭和 50 年代前半、衰退傾向にあった商店街の現状に対する危機感を持った若手商業者が中心となって外部の大学生の協力を得て始めたイベント「アクション大須」が、大須商店街再生の起爆剤となりました。それに続くようにして、地下鉄 3 号線の開通、ラジオセンターアメ横の進出、アクション大須から発展した「大須大道町人祭り」が始まり、大須商店街は再生に向けて大きく動きだしました。

そして、大須サマーカーニバル、土曜市、若草祭などの商店街イベントの他に、骨董市、サンデー大道芸人など年間を通じた多様なイベントが戦略的に開催されるようになって大須商店街は次第に賑わいを取り戻すようになりました。



大須大道町人祭り



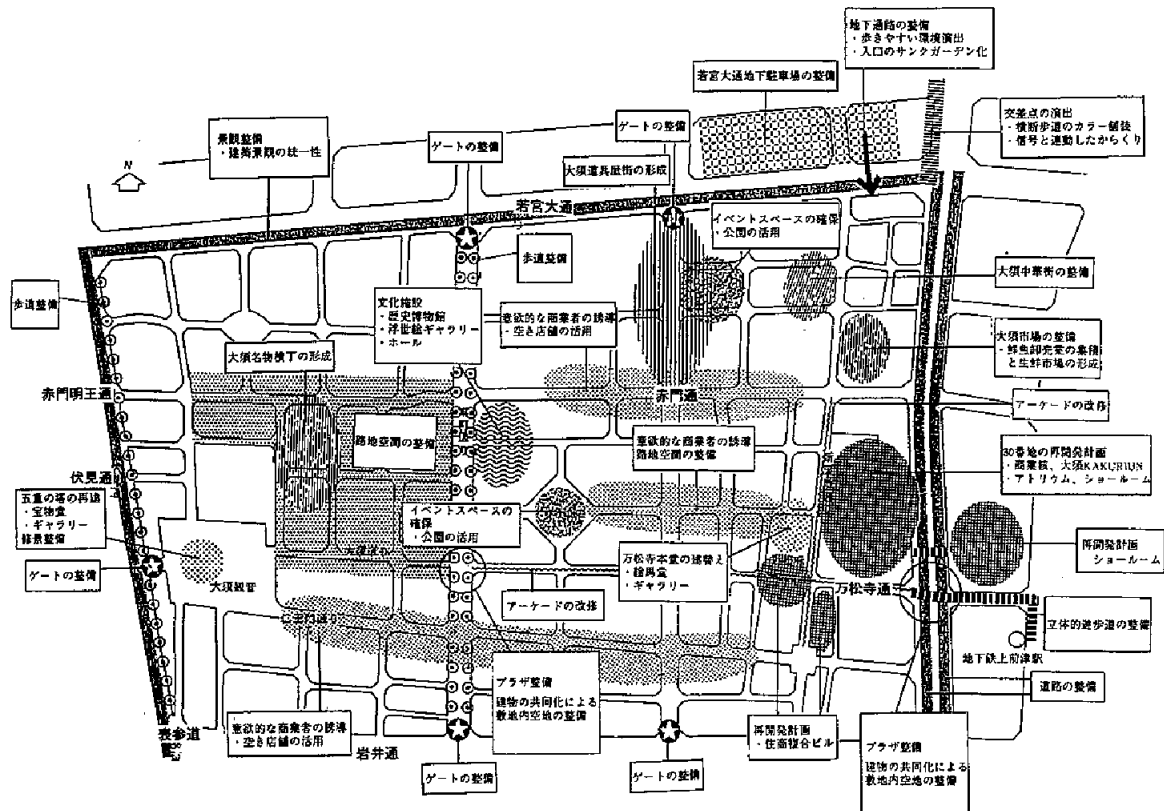
大須サンデー大道芸の様子



大須観音

【電気街からパソコン街、若者のファッション街へ】

その後の大須商店街でもっとも大きな影響を与えたのが、アメ横の進出です。それまでの来街者は高齢者が主体でしたが、若者が集まるようになりました。そして、パソコンブームに伴って、アメ横周辺にパソコンショップが集積するようになり、全国的にも有数のパソコン街が形成され、広域から集客できるようになりました。さらに、こうした若者の集客力を目当てに、ファッション関係の店舗が相次いで出店されるようになり、今ではファッション街の性格も有するようになっていきます。



大須地区整備課題

出典：「名古屋市特定商業集積整備基本構想作成調査報告書」（平成4年、名古屋市）



パソコンショップビル



裏通りに進出している若者
向けのファッション店

【ごった煮から生まれる新鮮さが大須商店街の魅力！】

数々のソフト事業の展開と戦略的な情報発信に力を入れつつ、その後、地元商店主などが主体となってアーケードの整備や再開発も進めている大須地区。休日の通行量は昭和 55 年前後に比べ 2 倍～4 倍に増えており、今では、栄や名古屋駅周辺と並ぶ都心商業地として位置づけられるようになっていきます。若者から高齢者までの多種多様な客層を対象とした機能や古いものと新しいものとが混在している大須商店街の最大の魅力は、きれいに整備された大型店や都心商業地にはない変化と感動が味わえる意外性ではないでしょうか。



大須の中央に位置する万松寺通商店街の人通り



大須の歴史を物語る老舗